

(数学) 授業計画表

教科名	科目名	単位数	学年・講座	教科書名 (発行所)
数学	数学B	2	3年1組II型	数学B Standard (東京書籍)
学習のアドバイス	1 日々の授業を大切に、課題はその日のうちに仕上げよう。 2 学習内容は既習内容も含んでいるので、必要があれば復習しよう。 3 考査前や長期休暇等の課題・提出物は期限を守り提出しよう。 4 休日の家庭学習を充実させ、実力アップを図ろう。			
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学と社会生活の関わりについて認識を深めている。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 事象を数学的に表現したり考察したりすることができる。 母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
	上記の観点を踏まえて、定期考査、出席状況、授業態度、提出物、課題等を観点別に評価し、3観点の評価を総括する。			
	授 業 内 容		時間数	学 習 の ポ イ ン ト
学 期	1章 数列		8	○数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解する。 ○等差数列の一般項を初項と公差を使って表す。 ○等差数列の初項から第n項までの和を求める。 ○等比数列の一般項を初項と公比を使って表す。 ○等比数列の初項から第n項までの和を求める。
	1節 数列			
	1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和			
	<中間考査>			
2節 いろいろな数列		8	○記号 Σ の意味と性質を理解し、自然数の累乗の和を Σ を用いて表す。 ○階差数列や数列の和から一般項を求めたり、群数列などの少し複雑な数列の一般項や和を求める。	
1 数列の和と記号 Σ 2 いろいろな数列				
3節 漸化式と数学的帰納法		7	○数列の帰納的定義を理解し、漸化式を活用する。 ○数学的帰納法について理解し、等式などの証明に活用する。	
1 漸化式 2 数学的帰納法				
<期末考査>				

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">二期</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">期</p>	<p>2章 統計的な推測</p> <p>1節 標本調査</p> <p>1 母集団と標本</p> <p>2節 確率分布</p> <p>1 確率分布</p> <p>2 確率変数の平均と分散の性質</p> <p>3 確率変数の和と積</p> <p>4 二項分布</p> <p><中間考査></p> <p>3節 正規分布</p> <p>1 正規分布</p> <p>4節 統計的な推測</p> <p>1 母平均の推定</p> <p>2 仮説検定</p> <p><期末考査></p>	<p>1</p> <p>12</p> <p>6</p> <p>9</p>	<p>○標本調査の意義を認識し、標本の抽出法や用語などを理解する。</p> <p>○確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求める。</p> <p>○確率変数の平均と分散の意味を理解し、確率変数の平均や分散、標準偏差を求める。</p> <p>○確率変数の和の平均や独立な確率変数の積の平均、和の分散について理解し、それらを求める。</p> <p>○二項分布の確率や平均、分散及び標準偏差を求める。</p> <p>○正規分布に従う確率変数の確率を求める。</p> <p>○二項分布を正規分布で近似して確率を求める。</p> <p>○母平均、母分散、母標準偏差や標本平均の分布、分散などを求める。</p> <p>○標本平均の分布から母平均を推定する方法を理解する。</p> <p>○母平均の検定、母比率の検定を行うとともに、母集団に関する予想の妥当性について判断する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">三期</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">期</p>	<p>3章 数学と社会生活</p> <p>1節 数学的モデル化</p> <p>1 数学的モデルを用いた予測</p> <p>2節 関数モデル</p> <p>1 関数モデルを用いた予測</p> <p>3節 確率モデル</p> <p>1 確率モデルを用いた予測</p> <p>4節 幾何モデル</p> <p>1 幾何モデルを用いた考察</p> <p>5節 フェルミ推定</p> <p>1 フェルミ推定による推定</p> <p><学年末考査></p> <p>家庭学習</p>	<p>6</p> <p>13</p>	<p>○数学的に表現した数学的モデルの考え方を理解する。</p> <p>○予測の度合いを高めるために数学的モデルを修正したりする。</p> <p>○日常生活や社会生活などの様々な問題場面に潜む変量間の関係を見いだす関数モデルについて理解する。</p> <p>○身の回りで起こる不確実な要素を含む現象を確率を用いて表現する確率モデルについて理解する。</p> <p>○事象を平面図形または空間図形を用いて表現する幾何モデルについて理解する。</p> <p>○直感で把握することが困難な数の概数を求めるフェルミ推定の考え方を理解する。</p>
<p style="text-align: center;">総 時 間 数</p>		<p>70</p>	